

B-4: 研究経営・戦略・IR

開催日時・会場 9月4日(水曜日) 13:50-15:20 新C303(3階)

中の人語る、"学内ファンド運営"の理想と現実： 研究開発評価の実装を目指して

京都大学、新潟大学、筑波大学等、URAが学内ファンドを設計し、運用する大学が少なくありません。しかし、学内ファンドという性質上、そのノウハウや苦労が他大学のURAに共有されることが少なく、それぞれが手探り状態でした。

私たちはこのセッションを、いくつかの大学の学内ファンド担当者がお互いに知見を交換しあう、RA協議会としては初の試みとしたいと考えます。そのため、学内ファンド担当者の積極的な参加を期待しています。

セッションではまず、学内ファンドの事例として、京都大学のSPIRITSプログラムや新潟大学のU-goグラントを紹介し、参加者と学内ファンド運営上のベストプラクティスや困難について意見を交換します。

セッション後半では、学内ファンド運営において一つのフレームワークとなる「研究開発評価」の観点から、政策研究大学院大学(GRIPS)科学技術イノベーション政策研究センター(SciREXセンター)の安藤二香氏に、ご自身のJST・RISTEXにおけるファンディング・プログラムの運営経験を踏まえたレクチャーとコメントをいただき、学内ファンドのよりよい改善に向けた考え方についてさらに議論を深めます。

本セッションは全体として、「研究者の研究活動の活性化や研究開発マネジメントの強化」(文部科学省, 2012)を支える人材として成長してきたURAの現時点での成果を共有し、各大学の学内ファンド運営担当者がさらに成長していくための相互研鑽の機会となることを目指します。

オーガナイザー

長谷川 佐知子:新潟大学
研究企画室(経営戦略本部学長室兼務) 主任URA



住友商事で10年間、有機化学品貿易の営業アシスタントを務める。退職後は、英国留学、本田技研工業での新規海外販売プロジェクトを経験。結婚を機に新潟に転居。2009年より新潟大学で大学コンソーシアム活動に従事した後、2012年よりURAIに。外部資金獲得支援のほか、研究推進のための企画運営を担当。2018年より経営戦略本部学長室兼務。

岡崎 麻紀子: 京都大学 学術研究支援室 (KURA) URA



九州大学生物資源環境科学府修了し博士号(農学)を取得。鳥取大学乾燥地研究センター、九州大学農学部附属演習林、京都大学農学研究科、日本学術振興会特別研究員(PD)を経て2017年11月より現職。森を「ハカル」研究をしていたが、現在はKURA企画・広報グループにて学内ファンド運営や研究力を「ハカル」IR業務等に従事。

天野 絵里子: 京都大学 学術研究支援室 (KURA) URA



1998年より京都大学附属図書館、九州大学附属図書館等で図書館職員として勤務。2014年より現職。学内ファンドSPIRITSの運営や、人文社会科学系研究支援、研究成果の発信支援に携わる。同志社大学にて2008年、専門職大学院ビジネス研究科修了、2015年、総合政策科学研究科博士後期課程修了。博士(技術経営)。

講演者

安藤 二香: 政策研究大学院大学
科学技術イノベーション政策研究センター 専門職



立教大学理学部を卒業後、東京大学大学院総合文化研究科広域科学専攻にて博士号を取得。2004年から約14年間、国立研究開発法人科学技術振興機構社会技術研究開発センターにて、社会課題の解決を目指したファンディング・プログラムの設計、マネジメント、プログラム評価等の業務に従事。2018年11月より現職。SciREXセンターでは、行政官と研究者との対話・協働による研究開発の推進や、研究開発評価に関するプロジェクトに従事。